

上級学習者のビブリオバトルに見られる 聞き手への働きかけ

堀 恵子（筑波大学・東洋大学）
khor i34@gmail.com

【要約】

大学の上級レベルの口頭表現クラスにおいて、好きな本を紹介し、参加者全員が最も読みたくなった本を評価して決定する書評ゲーム「ビブリオバトル」を行った。先行研究では、ビブリオバトルは意見表明のスピーチと比較して聞き手への働きかけが多いと指摘している。本研究では、先行研究に基づいて文の種類を分類し、働きかけ表現の出現と評価の関係を検証したところ、働きかけ表現の出現割合と評価には正の相関は見られなかった。そこで、日本語母語話者と学習者の発表を分析し、ビブリオバトルが聞き手とのコミュニケーションとして高評価を得るための仮説を提示する。

1. 背景と本稿の目的

近年口頭表現の能力を伸ばすことを目的としたクラスにおいて、ビブリオバトルを取り入れた授業の報告がなされている。ビブリオバトルとは、参加者がおもしろい本を人に勧めるために書評スピーチを行い、最も読みたくなった本を参加者全員の投票で決める「書評ゲーム」である（谷口 2013）。参加者全員が話し手とも聞き手ともなるため、書評を媒介とした「コミュニケーションの場づくり」（谷口 同）と位置づけられ、ビブリオバトルを通して「人を通して本を知る。本を通して人を知る」（谷口 同）ことができるとしている。

日本語教育にいち早くビブリオバトルを導入した山路・須藤・李（2013）は、ビブリオバトルを授業に取り入れることで、学習者の動機を高め、聴衆の理解や聞き手への共感に対する配慮をもたらしたと述べている。

一方、菅原・虫明（2014）は、聞き手を強く意識するという点において他のスピーチと異なるとし、聞き手に働きかける表現の使用割合を意見スピーチと比較している。それによると、呼びかけ、質問、勧めという聞き手への働きかけの表現がビブリオバトルのみに見られたと指摘する。

ビブリオバトルがコミュニケーションの場づくりとして働くのであるなら、聞き手に配慮することは当然のことと想像されるが、働きかけの表現を用いることだけが直接高評価につながるのであろうか。ビブリオバトルは聞き手全員の投票によって最も読みたくなった本「チャンプ本」を決めるゲームであるため、各スピーチの評価が明らかになっている。そこからスピーチに用いた表現類型と評価との関係を統計的に検証することができる。そこで、本稿では授業で行われたビブリオバトルスピーチの表現類型を菅原・虫明（2014）に倣って数値化し、参加者の評価との関係を検証し、高評価を得るスピーチとは何か、ひいては聞き手とのよいコミュニケーションを生むスピーチとは何かを探る手がかりを得ることを目的とする。

2. ビブリオバトルのルール

ビブリオバトルの公式ルールは、下記の4点である（谷口 2013 : 16）。

- (1) 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
- (2) 順番に一人5分間で本を紹介する。
- (3) それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分行う。
- (4) 全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員一票で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。

また、各ルールの補足があるが、基本は上記4点のルールを守ればよく、例えばレジュメの使用については特に禁止したりはしていない。

日本語教育に取り入れる際には、以上のルールを基にしながら、現場に合うように応用することも必要ではないかと考える。そこで、次章で本実践で行ったクラスルールを取り上げる。

3. 実践を行ったクラスとクラス活動としてのビブリオバトル

筆者は筑波大学の上級学習者を対象とする2種類のクラスにおいて、口頭表現能力を向上させるために2013年からビブリオバトルを取り入れている。本章では、各クラスの目的とビブリオバトルを取り入れた理由、実施・評価方法についてのべる。

3-1 技能別「話す J800」クラスの概要

2013年度から筑波大学留学生センター¹は2学期制をとり、半期に15回の授業を行うこととなった。筆者は補講コースの最上レベルを担当することになったため、ビブリオバトルを授業に取り入れた。

補講コースの受講者は、研究生（教員研修留学生を含む）、短期留学生、正規の学生（学類生、大学院生、G30²）、日本語研修生（日韓共同理工系学部留学生を含む）、日本語・日本文化研修留学生、その他センター長が適当と認める者である。クラスは100から800までの8段階で、400以上の中級・上級クラスは技能別³に分かれている。筆者が担当している科目は「話す J800」であり、口頭表現の最上位クラスである。関崎ほか（2012）は、2学期制になる以前のクラスレベルについて、最も高いレベルをCEFRのB2.1からC1に相当するとしている。2013年からクラス編成が9レベルから8レベルに変わった後で最上レベルを引き継いだ本稿の「話す J800」も、ほぼそのレベルに相当すると考えられる。

授業は週に1コマ、1回の授業は75分で、15週にわたって行われる。補講コース「話す」授業の目標は、大学での研究や大学生としての生活に必要な「話す」能力を高めることである。「話す J800」のクラスでは、表1に示すように15回の授業で3つの発表を行う。

表1 「話す」800クラスの主な活動

活動のテーマ	内容	目的	話すための補助ツール
発表①「私の専門」	自分の専門を専門以外の人に説明する	構成・論理的展開、説明、比喩、引用	SmartArt を取り入れたスライド
発表②「ビブリオバトル」	好きな作品を熱く語る	楽しむ、聞き手を引き付ける	レジュメ
発表③「ミニ研究発表」	研究課題の設定からデータ収集、課題解決までを発表	短い概要＋詳しい説明、質疑応答	ポスター

3-2 短期留学生対象「総合日本語コース『演習』7」クラスの概要

筑波大学の「総合日本語コース」は、短期留学生と学群特別聴講学生を対象とした、単位を必要とする学生のためのコースである。クラスは日本語1から日本語7までの7段階で、日本語4以上の中級・上級クラスは技能別⁴に分かれている。コース全体の目標は、大学での研究や大学生としての生活に必要な日本語能力を高めることである。

筆者が2014年度から担当している「総合日本語コース『演習』7」(以下、「演習7」)は、7段階の最上レベルである。授業は、補講コースと同じく、週に1コマ、1回の授業は75分で、15週にわたって行われる。

クラスの目標は、大学の授業を受講するにあたって必要な日本語力およびスキルを身につけ、全般的な日本語運用力を高めることである。授業では、「話す聞く」「読む書く」という技能別クラスとの重複がないよう、四技能を総合的に使って行う活動を取り入れることにした。短期留学生向け授業であることから、日本語母語話者と直接コミュニケーションを取る機会を取り入れること、日本のメディアも活用することを目指した(表2)。

表2 「演習7」クラスの主な活動

活動のテーマ	内容	目的	活動補助ツール
自己紹介	留学の目的と専門の説明	構成・論理的展開, 説明	SmartArt を取り入れたスライド1枚
図書館利用講習会	講習会を聞く	聴解, 理解したことを話す	スライド・配布資料
読解「アカデミック・スキルズ」	本を読んで要約	読解, 要約, 説明, 引用, 語彙	レジュメ
テレビ番組視聴「サイエンスゼロ」	科学番組を視聴して, 要約する	聴解, 要約, レポートの書き方	ビデオ・レポート
「ビブリオバトル」	好きな作品を熱く語る	楽しむ, 聞き手を引き付ける	レジュメ

3-3 クラス活動としてのビブリオバトル

本節では、上記2つのクラスにビブリオバトルを取り入れた理由、クラスでのルール、授業での指導のポイントについて述べる。

3-3-1 ビブリオバトルを取り入れた理由

クラス活動にビブリオバトルを取り入れた理由は、下記の4点である。

(1) 話すことを楽しむため

「話す J800」における発表①と発表②の専門分野・研究に関する発表や、「演習7」における『アカデミック・スキルズ』の読解と要約、科学番組の視聴と要約、レポート作成というアカデミックな活動だけでは、学習者にはややもすると難しく、堅苦しく感じられることもある。そこで、自分の好きな作品を情熱をもって語るという活動を取り入れることで、クラス活動を明るく、楽しくすることを目指す。

(2) 心情や熱い思いを表す表現を学ぶため

アカデミックな場面での口頭表現は、研究発表にふさわしい改まった表現、客観的な論拠に基づいた意見表明、データの説明などを多用する。これらはもちろんクラス目標のために必要な活動であるが、それ以外にも学習者の長い人生を考えると、好きなことを熱く語るための表現も学ぶべきであると考えられる。

(3) 情熱をもって話すことを学ぶため

研究発表では、冷静に話すことが必要であると思われがちである。しかし、アンホルト（2008）は科学分野の口頭発表について「情熱は成功を 90 パーセント約束する」と述べて、情熱を傾けることで聞き手を惹きつけることの重要性を説いている。そこで、聞き手を惹きつける情熱を込めた話し方を、好きな作品を語ることを通して学ぶことを目指す。

(4) 短い時間制限を体験する

ビブリオバトルには 5 分という時間制約がある。短い時間の中で話したいことを凝縮して盛り込むことはアカデミックな場面においても、将来のビジネス等においても必要とされることである。そこで、短い時間の中で効果的な発表ができることを目指す。

3-3-2 ビブリオバトルの実施方法

2 つのクラスにおけるビブリオバトルの実施方法は、次の 5 点である。

(1) 面白い/好きだと思う本(アニメ含む)・映画・テレビ番組（日本語で出版/放送されたもの）について話す。

作品を書籍だけに限らず、映画やテレビドラマなども認めている理由は、大学院入試を控えた研究生も多く、新たに本を読むことが困難であることが考えられるためである。

(2) 一人 5 分間で紹介する。時間厳守で 5 分経ったら強制終了する。

(3) 聞き手の理解のためにレジュメを作成する。A4 で 2 ページまで。

授業では、話し手も聞き手も留学生であることから、理解のしやすさを考慮して配付資料の作成を取り入れている。

(4) 発表の後、全員で質問を含めたディスカッションを 3 分行う。

(5) ディスカッションの後で、クラスメートがルーブリックによって評価し合う。最も合計点が高かった作品に「ビブリオバトル賞」を与える。

3-3-3 授業における指導のポイント

授業では導入として、YouTube にある「ビブリオバトル首都決戦 2012」の録画 1 編を見せ、発表のよい点、よくない点を自由に述べさせようとして、どのような発表がよいかを話し合わせる。その後、選んだ作品について発表し、コメントやアドバイスをし合うピア活動を 3 回にわたって異なる相手と行う。最終発表は、前項で示したルールに従って行い、相互評価をする。

ビブリオバトルの指導において強調したポイントは、下記の 2 点である。

(1) 客観的で明解な説明だけでなく、「共感を呼ぶ」説明を行うこと。

作品に対して「好き」と思う気持ちを伝えるためには、発表者の人格に興味を持って、共感してもらうことが必要である。そこで、作品を知ったきっかけ、どこがどれくらい好きなのか、発表者の人生にどのような影響を与えたのか、などを交えて話すことが必要である。

(2) 聞き手がレジュメに注目し過ぎないように、語りに注目させる工夫をすること。

レジュメを見ていると聞き手の視線は下を見たままになるため、聞き手の顔を上げさせることが必要である。そこで、聞き手への呼びかけや質問などを工夫する。

3-4 評価方法

ビブリオバトルの評価には、表 3 のルーブリックを用いている。ルーブリックによる評価について當作（2013）は、次のように述べている。

- (1) 学習の結果，プロセスを評価する採点基準を明確にしたガイドラインである。
- (2) 学習状況，結果を構成，かつ首尾一貫した方法で評価し，フィードバックを出すための手引きである。
- (3) 教師，学習者ともに使える。

そこで，クラスメートによる相互評価をループリックによって行うことには，次の4点のメリットがあると考える。

- (1) 評価基準とレベル別記述が明確であるため，学習者が発表において何を目標に頑張ればいいのか分かる。
- (2) クラスメートを評価する目を養うことで，自分自身の能力を振り返る力を身につけ，ひいては自身の能力の向上につながる。
- (3) 評価の透明性が担保される（同じループリックを教師による評価にも用いる）。
- (4) 「よかったところ，アドバイス」欄の記述を書くことで，学習者同士の励まし合いになる。

4. 本研究の課題

第1章で触れたように，菅原・虫明（2014）は，ビブリオバトルスピーチには意見スピーチには見られない呼びかけ，質問，勧めという聞き手に働きかける表現が見られたと指摘している。しかし，働きかける表現が多ければ，聞き手を引き付け，高い支持が得られるのかは不明である。菅原らも，音声面と用いる言葉にも特徴が見られたと指摘しており，働きかけの表現による効果は検証されていない。そこで本研究では，ビブリオバトルスピーチに使用された働きかけの表現と相互評価による得点の相関を調べることで効果を検証する。その上で，聞き手の支持を得るスピーチに必要な要素について仮説を立てる。

研究課題：働きかけの表現の使用割合と相互評価による得点との間に相関はあるか

5. 調査

5-1 表現類型

菅原・虫明（2014）は，スピーチの発話を杉戸（1997），木下（1981）を参考に，表4に示した表現類型に分類している。その用語と説明，例文は下記の通りである。

「主張」：話し手が自ら考えた内容（木下1981）

「事実」：出典を明示できる内容

「挨拶」

「終結」

表3 「ビブリオバトル」におけるループリック評価

	たいへんよい：3点	いくらかよい：2点	よくない：1点
全体の印象，共感	全体の印象はとてもよく，話し手の気持ちにとっても共感できた。	全体の印象はほぼよく，話し手の気持ちにほぼ共感できた。	全体の印象はあまりよくなく，話し手の気持ちにあまり共感できなかった。
作品の内容理解	作品の内容に関する説明は明確で，よく理解できた。	作品の内容に関する説明はあまり明確ではないが，発表全体から推測できた。	作品の内容に関する説明は明確ではなく，よく理解できなかった。
作品のおもしろさ	作品のおもしろさはよく理解できた。	作品のおもしろさはあまり明確ではないが，発表全体から推測できた。	作品のおもしろさは明確ではなく，よく理解できなかった。
話し手の情熱	話し手の情熱がよく伝わってきた。	話し手の情熱がいくらか伝わってきた。	話し手の情熱があまり伝わってこなかった。
レジュメの内容	必要な情報がすべて書かれており，理解を助けた。	必要な情報が十分書かれていないが，いくらかは理解を助けた。	必要な情報が少ししか書かれておらず，理解の助けにならなかった。
レジュメを使った説明	レジュメを使った説明はわかりやすく，内容を理解するのに効果的だった。	レジュメを使った説明はほぼわかりやすく，内容を理解するのにときどき効果的だった。	レジュメを使った説明はわかりやすくなく，内容を理解するのに効果的ではなかった。
聞き手とのコミュニケーション	聞き手をよく見ており，よくコミュニケーションができていた。	聞き手をときどき見て，いくらかはコミュニケーションができていた。	聞き手を見るのが少なく，コミュニケーションができていなかった。
声の大きさ，速さ，音調など	声の大きさ，速さ，音調などがちょうどよく，たいへん理解しやすかった。	声の大きさ，速さ，音調などのうち，いくらかよくないこともあるが，なんとか理解できた。	声の大きさ，速さ，音調などのうち，よくないことがあり，理解しにくかった。
合計点			
総合得点	点		

よかったところ

表4 意見スピーチとビブリオバトルスピーチの表現類型別割合（%）菅原・虫明（2014）

	意見スピーチ	ビブリオバトル
主張	26	14
事実	53	46
挨拶	9	4
終結	7	2
本の主題	5	3
自己紹介		3
勧め		4
質問		22
呼び掛け		2

「本の主題」

「自己紹介」

「勧め」例) もし興味があったら、この本を通じて本当の中国に目を向けてみてください。

「質問」例) 日本語と中国語でどちらが難しいと思いますか

「呼びかけ」例) みなさん、・・・小学校のことを思い出してください。

本稿でもこれに倣って表現文型に分類し、その使用割合と評価の関連を検討する。

5-2 調査の概要

調査の概要と手順、分類方法を下記に示す。

調査協力者：「話す J800」受講生 6 名と「演習 7」受講生 5 名の合計 11 名

調査方法と手順：発表内容を録画、書き起こしし、音調、文末表現、ポーズなどから文の終わりを確定した。その後、1 行ごとにエクセルに書き出した。

分類方法：菅原・虫明（2014）に倣って表現類型に分類した。しかし、菅原・虫明（同）には見られない「はい。」のような話し手自身の確認や、「次は、あらすじです。」のように談話の構成を示す発話は、「その他」として分類した。また、1 文の中に明らかに表現類型が異なる文が挿入されている場合は、句の単位で分けて分類した。下記の例では、「アカデミー賞」について発話の途中で聞き手に質問をして確認し、再び事実を述べているため、3 つの部分に分けて処理した。

例) (下記の例において、「」は発話文の一部。→の右は分類)

「この映画は、アメリカでは 2012 年 11 月に、日本では 2013 年 1 月に公開された映画ですが、この映画は第 85 回アカデミー賞で、」→**事実**

「アカデミー賞では知ってますよね。」→**質問**

「アカデミー賞で 11 部門ノミネートし、監督賞、作曲賞、撮影賞、企画効果賞の 4 部門を受賞した映画です。」→**事実**

評価：クラス内での相互評価を用いた。発表当日の出席者によって合計点が異なるため、平均値で示した。

6. 結果

11 名の発話について、文の総数と聞き手に対する働きかけ表現（勧め、呼び掛け、質問）の割合、相互評価によって得た得点を表 5 に示す。働きかけ表現の割合と相互評価の得点との間には、中程度の負の相関の傾向が見られた ($r=-0.58, p<0.1$)。

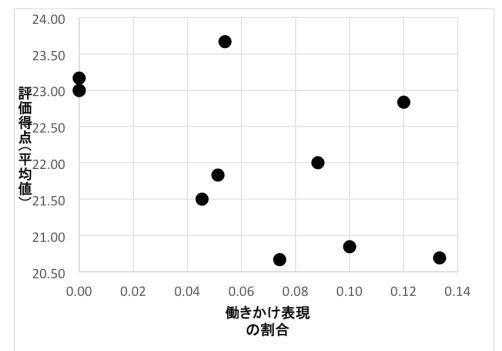


図 1 ビブリオバトルにおける働きかけ表現の割合と総合評価

表 5 ビブリオバトルにおける文の総数、働きかけ表現の割合、総合評価

学習者	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
総文数	27	39	35	30	20	34	44	34	25	33	37
働きかけ割合(%)	0.07	0.05	0.00	0.13	0.10	0.09	0.05	0.00	0.12	0.00	0.05
評価(24 点満点)	20.67	21.83	23.00	20.69	20.85	22.00	21.50	23.17	22.83	23.00	23.67

7. 考察

調査の結果、マイナスの相関の傾向が見られたが、実際には働きかけの表現を使えば使うほど評価が下がるとは考えにくく、両者の関係は実質上無関係であると考えるのが妥当であろう。今回の結果は、データ数が少ないことが影響している可能性が考えられる。

働きかけ表現の割合と相互評価の得点とには関連がないとすると、ではいったい何が高評価を得る要因なのであろうか。

ここで今一度、谷口（2013）の示すビブリオバトルとは何かに立ち戻ってみる。谷口はビブリオバトルを「書評を媒介としたコミュニケーションの場づくり手法」「人を通して本を知る。本を通して人を知る」と述べていた。そこで、人の心に訴えかけるには、形式的に質問をしたり、呼びかけたり、本を勧めたりするだけではなく、その本を知り、話し手を知ることが共感につながるのではないかと考える。

ここで、YouTubeにある「ビブリオバトル首都決戦」の15本を視聴した結果を参考に、特にそのうちの2013年チャンプ本と、学習者の中で最も高得点を得た学習者Kの発話を質的に検討する。

7-1 日本語母語話者のチャンプ本の発話

2013年チャンプ本『宇宙飛行士選抜試験』のスピーチの内容を見てみる。（末尾資料参照）

冒頭冗談を言って観客を笑わせた後、本題に入る際にいきなり「みんな宇宙の話をしよう。」と、同じ宇宙のテーマを扱った映画の名セリフを呼びかけに使用して、観客の注意を引いている。

そのあと、本の主な内容であるJAXAの宇宙飛行士選抜試験について、いくつかの情報を示し、試験に合格するために何が必要かを問いかけた後、最終試験に残った10名の候補者に焦点を当て、最終試験での「僕の好きなエピソード」を語る。10人で折り鶴を完成させた話を語った後、「僕はこのエピソードを読んで思わず泣いてしまいました。」と心情を吐露し、そのライバルを越えて折り鶴を折り上げた人間力こそが宇宙飛行士に求められるものであったと、彼なりの答えを示して聞き手が納得できる展開となっている。さらにその後、10名が試験の後どうなったのかをすべては明かさず、「ぜひ読んでください。」と勧めている。終結部では、宇宙飛行士達が命をかけて自分と全人類の夢を抱えて宇宙を目指していると熱く語って、「ぜひ皆さんのこの本を読んで夢を持つ熱い気持ちを味わってください。」と結んでいる。

このように、紹介する本の内容だけでなく、自分がどの点にそのくらい感動したのかという自分自身について述べることで、自己開示をし、共感を呼んでいるのではないかと考えられる。

7-2 学習者のチャンプ本の発話

次に学習者のスピーチを見る。学習者のスピーチの本のタイトルは『なまけものの悟り方』である。

冒頭「今日は私が最近読んで大好きになった本を紹介したいと思っています。」と「大好き」と好みの程度を言うことで、聞き手のクラスメートの興味を引いている。さらに、「話を始める前に皆さんに質問したいことがあります。皆さんのなかで怠けたことがある方、それとも自分のことを怠け者と思っている方、手を挙げていただけませんか。」と問いかけ、怠けることが自分だけの特殊なことではなく、広く共通していることであると共有意識を生む発言をし、話に引き込んでいる。その上で、本の内容を与えた後、「この本の一番伝えたいメッセージは成功の基は自分に対しての愛です。悟るためにそのままの自分を愛しなければならぬということです」と、本の最も重要な点を指摘し、聞き手に内容を理解させている。さらに本が薄くて読みやすいこと、簡単に買えること、哲学といっても難し

くないことを言い添えて、聞き手の読みたい気持ちを誘っている。使用されている語彙は難しいものではなく、発音も聞きやすく、理解しやすいスピーチであった。ただし、学習者のクラスメートにとっては、若干スピードが速すぎたようで、コメント欄にもっとゆっくり話してほしい旨が書かれていた。

聞き手への働きかけ表現の使用は多くはないが、効果的に用いている。また、本の内容を分かりやすく伝え、話し手の感じたことを共有したいという態度で聞き手に訴えかけていること、難しい語彙などを使用しないで、分かりやすく話していることなどがみられる。

7-3 高評価を得るビブリオバトルスピーチの条件

以上の母語話者と学習者の成功したスピーチの特徴を、「ビブリオバトル首都決戦」のその他の14本のスピーチも参考にしてまとめると、下記の点が観察された。

- 本の内容が簡潔に述べられ、聞き手が内容を必要かつ十分推測できる。
本の情報、内容を理解したうえで、ある程度未知の部分が残っていることがよいようである。
- 自分がどこに感動したのか、どのくらい感動したのかを伝える(自己開示)。
本を知ったきっかけ、なぜ感動したかなど話し手自身の人となり分かる情報を示すことで、共感を呼ぶ。
- 話し手の感動は特殊なことではなく、広く聞き手に共有できる感動であることを表現する。
- 作品の最後まで語り尽くさない(ネタバレしない)。
- 冒頭で聞き手を引き付ける仕掛け(呼びかけ、質問など)を工夫している。
- 緊張しすぎず、リラックスしている。
- 話し言葉として言葉が生きていて、理解しやすい。
作文のように複雑すぎる構文を用いない。耳で聞いて分かりやすいことが重要である。また、いかにもしっかり練習して覚えてきたことを再生しているだけという態度が見えてはいけない。
- 話すスピードが速すぎない。

以上の8つの条件が満たされるようなスピーチが、「人を通して本を知る。本を通して人を知る」(谷口2013)ことを満たすものであると考えられる。

谷口・須藤(2011)はビブリオバトルの制限時間5分の長さについて、書籍の概要だけでなく、本を選んだ動機などを語ることで「参加者の中で人格的な情報が共有されることになる」と述べている。聞き手を意識し、聞き手と共感を呼ぶためには、働きかけの表現という形式の使用だけでなく、人格に触れ、共感しあう自己開示が必要なのではないかと考えられる。

以上をまとめると、ビブリオバトルの評価には、①紹介しようとする本の内容を聞き手が必要かつ十分理解でき、内容に期待を持たせること、②話し手の自己開示によって共感を得ること、③働きかけの表現などを用いて、聞き手を話に引き込むこと、④難しすぎない分かりやすい語彙、文と、聞きやすい音声・音調を使用すること、の4点が有機的に結合していることが必要なのではないかと考えられる。

本研究の研究課題に関しては、働きかけの表現を用いることは、聞き手を話に引き込むために有効な手段ではあるが、それだけが聞き手の評価を得る要因であるわけではないと結論づけられる。

8. まとめと今後の課題

本研究では、先行研究に基づいてビブリオバトルスピーチにおける働きかけの表現の使用割合と相互評価との関連を検証した。調査の結果、両者には関連がないことが明らかになった。その上で、チ

キャンプ本に選ばれた母語話者のスピーチと学習者のスピーチを質的に検討した結果、高評価を得るための4点が考えられることを述べた。

この高評価を得るための条件は、仮説の段階であり、今後の検証が必要である。また、ビブリオバトルで高評価を得るようなスピーチができるようになることが、その後の学習者の口頭表現能力の向上にどのように貢献するのかについての検討も、今後の課題である。

さらに、本研究では先行研究に従った分析であったが、口頭表現の表現類型を考えるにあたって、文単位ではなく、口頭表現の分析にふさわしい単位を再考することも必要となる可能性もある。ビブリオバトルスピーチをアカデミックな場面における日本語の口頭表現にどのように生かして行くかに関する実践研究もまだ行われていない。これらも今後の課題としたい。

参考文献

- ロバート・R・H・アンホルト著、鈴木炎・イイイン・サンディ・リー訳（2008）『理系のための口頭発表術』ブルーバックス、講談社
- 木下是雄（1981）『理科系の作文技術』中央公論社
- 佐藤望編著（2012）『アカデミック・スキルズ（第2版）－大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会
- 菅原和夫・虫明美喜（2014）「話す活動に位置づけた知的書評合戦ビブリオバトルにおけるスピーチの特徴：独話的スピーチから聞き手を意識したスピーチへ」『日本語教育方法研究会誌』21(1), pp. 92-93.
- 杉戸清樹（1997）「ととのえる」佐久間まゆみ・杉戸清樹・半澤幹一『文章・談話のしくみ』おうふう, pp. 137-163.
- 関崎博紀・小林真紀子・ボイクマン総子・杉浦千里・長戸三成子・堀恵子・ブッシュネル ケード（2012）「〈報告〉筑波大学留学生センター日本語教育スタンダード『話す』の構築に向けて」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』27号, pp. 247-270. 筑波大学留学生センター
- 谷口忠大（2013）『ビブリオバトルー人を知り本を知る書評ゲーム』文芸春秋
- 谷口忠大・須藤秀紹（2011）「コミュニケーションのメカニズムデザインービブリオバトルと発話権取引を事例としてー」『システム制御情報』55, (8), pp. 339-344.
- 當作靖彦（2013）「ルーブリックを使った評価」第17回AJE大会基調講演配布資料
- 山路奈保子・須藤秀紹・李セロン（2013）「書評ゲーム『ビブリオバトル』導入の試みー日本語パブリックスピーキング技能育成のためにー」『日本語教育』155号, pp. 175-188.

注

1. 2015年度より、グローバルコミュニケーション教育センターに改組された。
2. 英語コースの学類留学生である。
3. 補講コースの技能別科目には、「文法」「話す」「聞く」「読む」「書く」「漢字」がある。
4. 総合日本語コースの技能別科目には、「文法」「演習」「話す聞く」「読む書く」「漢字」「多様な日本語」「フィールドワーク日本語」「制作日本語」がある。

資料

1. 「ビブリオバトル首都決戦2013 決勝」<<http://shuto.bibliobattle.jp/record2013/book>>
「ビブリオバトル首都決戦2012」決勝戦 <<https://www.youtube.com/watch?v=YmVssRXYsuU>>
<<https://www.youtube.com/watch?v=AMSZxpuzuE0>> <<https://www.youtube.com/watch?v=5bGoY3PMhuU>>
<<https://www.youtube.com/watch?v=A9cplyyVcIk>> <https://www.youtube.com/watch?v=Ryt-M_nAwS4>

「ビブリオバトル首都決戦 2011」 決勝戦 <<https://www.youtube.com/watch?v=29wBSP0Vdks>>

<<https://www.youtube.com/watch?v=UtWjnYbEwIA>> <<https://www.youtube.com/watch?v=wE3huuzVDSI>>

<<https://www.youtube.com/watch?v=9xRclrpf9q0>> <<https://www.youtube.com/watch?v=k1Vv77zIJow>>

2. 2013 年チャンプ本『宇宙飛行士選抜試験』のスピーチ<<https://www.youtube.com/watch?v=9kSpE2iRCgE>>

どうも。くれぐれもみなさんによろしく申し上げますと、6 歳になる僕の娘が朝言っていました。すいません。冗談です。では、本題に入ります。

「みんな宇宙の話をして。」これは大人気漫画宇宙兄弟で主人公南波六太が選抜試験で言った言葉です。今日僕が紹介する本はこちら、「ドキュメント宇宙飛行士選抜試験」です。今まで全く極秘とされていた JAXA で行われている宇宙飛行士選抜試験がついに明らかになった、その辺が書かれている本です。

JAXA で行われている宇宙飛行士選抜試験は世界で行われている選抜試験の中で最も厳しい選抜試験だと言われています。なぜか。それは、今宇宙にいる若田さんのように国際宇宙ステーションの船長になれる人材を集めていたからです。この非常に厳しい宇宙飛行士選抜試験なんですけれども、実は過去にたったの 5 回しか行われてません。そして毎回の試験で採用されるのは、たったの 3 人程度です。数多くの人が憧れる宇宙飛行士選抜試験、この日も約 1,000 人の応募者がいました。その中から筆記試験や面接試験、そして身体検査を経て最終 10 人まで絞り込まれました。この本では最後に残った 10 人の人たちについてもスポットを当てています。

例えば、小中高大学と同級生だった女性と結婚し、生まれてきた娘 3 人に宇宙に関する名前をつけ、そしてその娘たちの将来の夢がお父さんが宇宙飛行士になることという幸せな家庭を持つパイロット。また国松警察庁長官というのをご存知でしょうか。警察庁長官で、また、自分が宇宙に行く夢を与えてくれた父親が突如自宅の前で何者かに拳銃で襲撃されるという事件を味わったそんな青年。また、社員 16 人の小さな会社に勤めるサラリーマン。その他にも、潜水艦の中に勤めるお医者さんなど、さまざまな人たちが最終選抜に残りました。

では一体何がこの 10 人の合格・不合格を分けるのか。宇宙飛行士だからやっぱり天才的な頭脳でしょうか。それとも誰よりも強靱な肉体でしょうか。そのどちらでもありません。本当に求められたのは、その人間力だったんです。人間力とは一体何か。それは世界中の誰からも好かれる人としての魅力、そして死と隣り合わせの環境にも耐えうる強靱な精神力だったのです。JAXA がこれを確かめるために、最終選抜試験では閉鎖環境施設という密室に 10 人を閉じ込め、1 週間朝から晩まで様々なテストを行いました。

このテスト例えば、ボードゲームを作れだったりなどの、宇宙とは関係ない試験もありましたが、その中で僕の好きなエピソードがあります。それは毎日 1 時間ずつ折り鶴を折って、最終日までに千羽鶴を作るというものです。数多くの候補生たちが最終日前日になっても千羽鶴に到底辿り着きませんでした。しかし、最後候補者達 10 人は JAXA の採点など関係なく、みんなで千羽鶴を作り上げようと言います。そしてみんなで協力して休憩時間等を削り、千羽鶴を作り上げるのです。そして作り上げた千羽鶴、これをこの中から宇宙飛行士に選ばれた人が将来宇宙に行く時に一緒に持っていってもらおうということになります。そして 10 人みんなでメッセージを書いてその折り鶴に付けました。そして折り鶴をなんと完成させたのです。僕はこのエピソードを読んで思わず泣いてしまいました。なぜなら、はじめはライバルとして見ず知らずの 10 人が集まったわけですが、最終的に 1 週間の過酷な試練を経て、同じ夢を追った同士として友情を得たのです。ドラマでもこんなドラマチックな展開、なかなかないと思います。

僕は、残念ながら時間の都合上、この後で行なわれた NASA での試験の内容や、最終的に誰が一体なぜ勝ち残ったのかそれを語ることはできません。しかし最終的に 2 名の合格者が出ました。そして 6 人の不合格者が出ました。計算が合いませんよね。10 人ですよ。あと 2 人ですよ。あと 2 人一体どうなったのか。それは今回の試験から導入された新しい制度によって明らかになります。ぜひ読んでください。読んでいただければあとの 2 人がどうなったかがわかります。そして途中で語った幸せな家庭を持つパイロット、その方が、謎の 2 名のうちに含まれています。

僕はこの本を読んで宇宙飛行士の方々がとても大好きになりました。なぜなら給料もそれほど高くないし、家族にもなかなか会えない。しかもいつ宇宙に行けるのかもわからない。それでもなお、そしていつ死ぬかもしれない。それでもなお宇宙飛行士の方々の子供の頃からの色あせない自分の夢を、そして全人類の夢を抱えて今日も宇宙を目指しているのです。ぜひ皆さんのこの本を読んで夢を持つ熱い気持ちを味わってください。

以上です。ぜひ皆さんのこの本を読んで夢を持つ熱い気持ちを味わってください。

以上です。